

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472000981	事業の開始年月日	平成16年8月1日	
		指定年月日	平成16年8月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ平塚南原グループホーム			
所在地	(〒254-0065) 平塚市南原3丁目8番17-6号			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に公共の公園等が沢山有り、季節の花々を觀賞しに外出が可能であるため、月に1回は外出及び外食を家族と共に行い、気分転換を図ると共に家族との交流に努めています。また、職員が毎食手作りしてお食事を提供している為、季節ごとの行事食を敏感に提供できています。
 地域の方々を受け入れられている為、地域の行事にもお誘いを受け、積極的に参加することができています。スタッフの異動が少なく、家族・利用者様双方と顔なじみの信頼関係を構築できています。スムーズな介護を提供できています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成22年2月28日	評価機関 評価決定日	平成22年4月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<事業所の優れている点>
 ◇「利用者の笑顔」を最も大切とする事業所独自の運営理念を作って運営している。理念を実現するため、まず職員が利用者へ、気持ちの余裕をもって笑顔で接することができるように、管理者は日々の申し送りやスタッフ会議で指導したり、職員同士で話し合っている。
 ◇事業所を囲む関係者(家族、地域、行政機関)との連携に努め、それぞれから協力・支援を得ている。家族会を年に2回開いたり、家族にも参加してもらう外出行事を実行して、その都度意見を聞いている。地域の色々な行事に参加したり、多彩な地域のボランティアを受け入れ、利用者へ喜んでもらっている。平塚市から派遣される介護相談員が積極的に利用者の相談相手になってもらうように努めている。

<事業所が工夫している点>
 ◇家族や地域の人達、行政機関への情報発信を強化して、良好な関係の維持を図っている。例えば、家族へは毎月、写真紙「ミモザ便り」や、各利用者ごとの出納簿に「ひとこと」を記入して送付している。事業所や地域の行事予定はできるだけ早く家族へ連絡し、参加・協力を呼び掛けている。またメールによる家族や平塚市担当課との交信も開始している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ミモザ平塚南原

事業所名	ミモザ平塚南原グループホーム
ユニット名	さくら壺番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所独自の理念と職員の介護の心構えとしての理念10か条を掲げ、管理者と職員は、話し合い、理念を共有しサービスに反映するよう日頃から努めている。	・法人の経営理念のほかに、「笑顔」を大切に、事業所独自の「運営理念」を作っている。 ・管理者は申し送りやスタッフ会議を活用して理念が実現するよう指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会、町内会に加入して地域の行事に参加し、また地域ボランティアの受け入れや地元の小・中学校との交流を行っている。	・神社の夏祭り、盆踊り、敬老会、運動会など多くの地域行事に参加している。 ・楽器演奏、マジック、フラダンス、習字、絵手紙、詩吟などの、地域のボランティアを受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域住民の介護相談などを積極的に受け、地域住民が気軽に立ち寄ってくれるホームを目指している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・3ヶ月ごとに自治会長、地域包括支援センター職員、家族代表、当施設職員の参加で開催し、要望などを共有しサービス向上に活かしている。	・家族代表から、福祉用具のリース開始は家族と十分に相談して進めてほしいとの意見があり、すぐに「苦情・相談」として対応した例がある。 ・地域包括支援センターから「事業所のニーズに合わせた、独自の研修会を支援できる」と提案を受けている。	・運営推進会議がマンネリ化しないように、地域包括支援センターの研修会提案なども採り入れて、内容を工夫することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・平塚市のグループホーム連絡会や研修会に積極的に参加をして、サービス向上に努めると共に、不明な点は介護保険課に確認している。介護相談員を毎月積極的に受け入れている。	・昨年12月から平塚市とメール通信を開始し、より早い応答が可能になった。 ・平塚市から派遣される介護相談員は異なった観点での、利用者の相談相手となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないケアについては、マニュアルもあり、また、委員会を作りスタッフが常に意識できる環境を作って取組んでいる。	・事業所内に所長、管理者、ユニット長をメンバーとする「身体拘束廃止委員会」を設けて活動している。 ・毎年1回、日常の介護実例に沿った内容で、職員研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・利用契約書、重要事項説明書に明記、虐待・拘束の厳禁を各職員に徹底すると共に、外部研修会への積極参加促進を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利事業や成年後見制度についての研修に積極的に参加し、職員間で内容の共有化を図り、意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・利用契約時にしっかり説明し、納得を頂いた上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ケアプラン作成時、利用者やご家族の希望を聞いたり、日常生活の中で利用者と職員が信頼関係を築き、利用者が意見を自由に言える様努めている。	・年に2回、家族会を開き意見を聞いている（2月14日の会には14名参加）。 ・日頃の来訪以外にも、外出行事、地域行事に多くの家族が参加し、協力している。これらの機会に家族の意見を聞いている。内容は申し送りノートに記録し共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回のスタッフ会議や毎日の申し送りの中で、意見交換等行われており、要望書の提出も行われている。	・申し送りやスタッフ会議で、職員の意見を聞いている。これに基づき、利用者の席配置や服薬管理の仕組みを変更した例がある。 ・管理者の返答を求める「要望・提案書」のシステムもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務実態について、代表者は毎月把握しており、スタッフ会議等で出される要望についても、検討し回答するなど環境整備に心がけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・代表者は、個人別研修の記録により計画的に外部研修を受けられるよう体制を整えている。また、社内で研修センターを作り、それぞれの立場で育成を行う取組みが確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・平塚市内のグループホーム連絡会に積極的に参加し、他グループホームとの相互研修を行うなどネットワーク作りに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居事前相談時より利用者が持っている不安、困難、疑問を時間をかけてお聞きし、「傾聴と需要」の姿勢を忘れずに信頼関係を築くよう努めている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族の一番困っていること、心配事をお聞きして、必要と思われる情報を積極的に提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談をじっくり聞き、入居が適切か他のサービスが適切かを見極め助言している。情報の提供は行われており、一緒に一番適切なサービスを探っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日常生活の中で、各ご利用者の得意だったことを教えてもらったりして支えあい、些細なことでも、目標を持って取り組むようにしそれが出来た時は職員と共に喜びを分かち合っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族も一緒に行事に参加していただき、共通の話題を持つ機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今まで大切にしてきた友人や親族と自由に交流できるよう訪問を歓迎している。	・「いつでも、ご都合のいいときに事業所へお出ください」と案内している。近くに住む親族が訪ねることも多い。子供（孫）を見せに来ることもある。 ・地域行事のとき、親族、友人が立寄っている。	

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者が孤立しないで交互に交流できるよう職員が配慮している。気のあった仲のよい利用者同士で散歩したり、席の配慮を行うなど声かけにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された利用者の家族でも、いつでも相談にこられるように話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・毎日の生活の中から利用者夫々の思いや希望を把握するよう努めている。聞き取り困難な利用者についても、職員の意見や家族の意向から汲み取るようにして、情報を共有している。	・職員の異動が少ないため、利用者と馴染みとなっている。表現が難しい利用者からも表情や反応を見て、意向を把握できている。 ・把握した内容は事業所内で共有するとともに、必要に応じて、家族へ伝え、同意を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・親族や利用者から生活歴や暮らしぶりを聞き、これまでの生活についての情報を得ながら個人の生活を大切に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・利用者の現状を把握して、一人ひとりの1日の過ごし方を一緒に考える。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・利用者の残存機能を活かした自立支援に向けてカンファレンスを毎月開催している。カンファレンスには、家族が参加していただきケアプランに反映し作成している方もいる。	・介護計画の期間は3か月とし、毎月のカンファレンスでモニターしている。利用者ごとに決めた担当者が、事業所で作成したチェックシートに基づき報告している。 ・カンファレンスに参加できない家族からは、来訪時に意見を聞き、介護計画へ反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の介護記録は個別に記入し、職員同士情報を共有しながらケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・家族の宿泊に便宜を図っている。また、家族を対象に認知症に対する勉強会を開催している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・自治会、近隣住民、地域包括支援センター、職員が参加する運営推進会議を開催し、地域ボランティアなどと協働して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医院の医師が、月1回往診していて、ご利用者の現状を把握している。また、家族の希望を尊重して、納得のいくかかりつけ医を利用してもらっている。	・利用者全員のかかりつけ医は事業所の協力医（内科）である。入所時に、利用者・家族へ説明し、切り替わった。 ・内科以外へは、家族が付き添って通院している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日常の健康管理について気軽に相談でき支援も顔なじみの看護師に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・医療機関と連携を密にして、早期退院に向け情報交換。相談に努め支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化や終末期ケアについての対応は、家族の意向と事業所の意向を共有化し、支援に取組めるよう努力する。	・法人の「ターミナルケア検討会」に所長、管理者が参加し、理解を深めている。 ・平成22年度から医療連携体制加算を開始するべく準備中である。2月の家族会で説明した。 ・死亡の前日まで家族と協力し、事業所で介護した例がある。	・医療連携体制の整備のなかで、事業所の、重度化やターミナルケアへの対応が、より具体的に進むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急時のマニュアルがあり、全職員は消防署が行う救急救命措置を必ず受講しており、応急対応を行うことは可能である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災避難訓練や職員による消火器取り扱い訓練が年2回実施されている。非常時にすぐかけつけられる職員が多数在住している。加えて近隣の住民からの協力の約束がもらえている。	・火災、防災訓練を年2回実施している。昨年10月の訓練ではエレベーターを停止し、職員が2Fの利用者を肩に乗せて避難した。 ・事業所の緊急連絡網に、近隣住民が2名入っている。必要時には協力を求めることができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ご利用者に対して、入居時に契約書で「安心と尊厳のある生活の支援」「秘密保持」を約束している。また、職員は自尊心を大事にした言葉かけをしている。	・職員は入社時に、法人の新人教育の資格を持つ先輩職員と一年間、一緒に介護にあたる。この過程で、利用者の尊厳をまもる介護法全般について、実践しながら学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、毎日の過ごし方、洋服など、自分の思いを表せるよう働きかけ、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者はそれぞれの能力に応じて仕事の分担をしている。また、それぞれ自分のペースで過ごして職員はそれとなく見守りしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。また、理美容は本人の望むようにしていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・ご利用者には、下ごしらえや盛り付けなどを手伝ってもらっている。また、希望にそった食事を提供できるよう、調査を行っている。	・料理の献立は、利用者の希望を聞き、前日の献立と重ならないように職員同士で決めて作っている。 ・季節折々の行事食では、おはぎ、稲荷ずしなどを、利用者もテーブルで輪になって作っている。	

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・お1人お一人の状態を常に観察し、また今までの習慣を家族にお聞きして食事量や水分量を適量確保できるよう支援している。献立は、栄養バランスに気をつけて作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・職員は口腔ケアの大切さを理解し、声かけ、見守り、一部介助にて口腔ケアを励行し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・お1人お一人の排泄パターンをつかみ、誘導する事により極力オムツの使用を避けている。また、失敗した時にもプライドは傷付けないよう配慮する。	・利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、可能な限り、おむつなどは使わず、家族と相談しながら、普通パンツに小さなパットなどの動きやすい形で介護している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ご利用者になるべく身体を動かし、繊維質の多い野菜中心の献立にするなど工夫している。水分補給にも心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・ご利用者の希望の時間帯や回数に入ることができる。柚子湯や菖蒲湯など、季節の行事を大事にして、好みの入浴剤、湯温で入浴を楽しんでいただけるよう工夫している。	・入所当時は入浴を嫌がる利用者も、入所に至るまでの生活環境を調べ、同じ地域出身の介護士による誘導で信頼感を作り出すなど、無理のない入浴誘導を行っている。	

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・不安により休めないご利用者には、職員が話し相手になったり、個々の生活習慣を大事にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員は個々に使用している薬について常に勉強をおこなっており、目的や副作用について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者の生活歴や能力に応じて張りのある生活が出来るよう、それぞれの特技等がのばせるよう、ボランティアのかたの協力を得て支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は散歩やドライブにでかけ、月に1回は外食にも出かけている。ベランダのベンチなどで気軽に日光浴などが出来るようにも支援している。	・平塚八幡への初詣、観梅、花見、アジサイ、七夕見物、紅葉狩り、ミカン狩りなど毎月1回外出行事がある。 ・ビールも楽しめる外食や、お小遣い持参での買い物をみんな楽しんでる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご利用者が個々にお金を所持し、七夕や祭等で好きな買い物ができるよう支援している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・携帯電話を持ち、自由に家族等と連絡しあっている方もいる。手紙も自由にやり取りできるよう、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングにおいてご利用者はテレビをみたり、談笑したりして思い思いにくつろいでいる。また、リビングにも手摺が付き安全にも配慮されている。	・リビングは明るく、利用者は折り紙やゲームを楽しんだり、穏やかにテレビを見たりして過ごしている。 ・壁には季節の飾り付けの他に、利用者の作品の習字、切り絵やドライブの写真などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご利用者が思い思いの時間を過ごす事が出来るように、しかし孤立する事がないように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご利用者が自宅にて過ごされた環境に少しでも近づけるよう居室には慣れ親しんだタンスや思い出の品、写真など多彩である。仏壇を持参しているご利用者もいる。	・各居室には、仏壇や、使い慣れた家具などを持ち込んでいる。壁には、家族と一緒に写真や、本人が制作した切り絵などを飾り付け、落ち着いた空間を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーを意識した建物で、手摺の設置は勿論車イスやシルバーカーを使用のご利用者も安全に生活できるよう工夫されている。		

ミモザ平塚南原

事業所名	ミモザ平塚南原
ユニット名	さくら式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の運営理念は常に職員が確認できる所に掲示している。また1回/月のスタッフミーティング等にて理念の共有をしケアに繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達への挨拶、声かけは進んで行き、地域の行事は積極的に参加をしている。自治会へも加入し運営推進会議を開催し地域の情報共有を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人達からの介護相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/3ヶ月運営推進会議を開催し自治会長、家族、地域包括支援センター、ご家族、管理者等の出席により要望や情報の共有を行いその結果をサービスへ向上している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの研修会へは積極的に参加をする。不明な点等については介護保険課へ連絡し情報を共有しケアのサービス向上に取り組む。1回/月介護相談員の受け入れを行っている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて研修を行い職員全員について理解を周知徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用契約書、重要事項説明書へ明記し利用者への尊厳を大切にしている。虐待への防止はスタッフ会議等にて職員へ周知徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する社内研修を行い職員へ周知徹底している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、重要事項説明書については利用者、家族へ説明を行い同意をいただいている。質問不明な点等についても納得理解が得るまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を1F玄関先へ設置し意見を投函しやすくしている。家族会の開催。家族来訪時には近況を報告を行い、利用者家族からの要望はケアプランへ反映するようにしている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを1回/月開催し職員からの意見や提案について傾聴している。ノートや申し送り時にも意見等を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表については管理者代表者が確認している。会議には確実に同席し意見や要望についてアドバイスを確実にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を積極的に進め、ケアへのレベルアップを行っている。新人の入社時はエルダー教育係等によりケアの向上に努めている。資格取得制度が確立している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市のGH連絡会に加入し意見交換や情報の共有を行い、交換研修会も行って質への向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の面接相談時には本人の要望に耳を傾け、納得理解をもってご入居される様説明をする。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接相談時にはご家族からの要望や介護に対する意向に沿える様にご意見を受容する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には何が最優先すべきかをご家族利用者と相談し相談者が必要と思われる情報を提供する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の言葉に常に耳を傾け喜怒哀楽を共に支え合うことができるよう敬う気持ちで接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時には近況報告や、1回/月写真の提供し家族と本人の絆を大切にしてください。行事への参加も声かけしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前の情報をできるだけ収集し、ご家族や知人の方が来訪されやすい雰囲気作りを行っている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格等を考慮し席を配置する。また会話が難しい時には職員が中に入り良い関係を保てる様考慮し孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には困ったことや不安等があった時はいつでも相談にのる事を伝えている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に利用者の言葉や思いやしぐさを良く見聴きしカンファレンス等で情報を共有し個々のケアプランへ繁栄している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族利用者ケアマネ等からの生活情報を集め個々のサービス利用の経過に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録やその他心身の記録等を確認、申し送りを詳細に行ない状態の変化をいち早く有することができるよう努め個々の状態に沿うように把握している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状態を踏まえ家族からも来訪時には介護に対する意向を話してもらう。ケアカンファレンスを開催し自立支援、本人の意向に沿うケアプラン作りをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に一日の様子を個別に記録し職員が必ず目を通す様になっている。ケアカンファレンス等で情報を共有しモニタリングを行いケアプランへ繁栄している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々利用者には状態が変化する時もある。その為日常の状態を良く観察し新しいサービスの提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、近隣住民、利用者家族、地域包括支援センター、スタッフが参加する運営推進会議を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力の医院から1回/月の往診を受け身体状況を報告している。受診は本人家族と相談してから行い、利用者のかかりつけ医は希望を考慮し家族と共に受診していただいている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理については相談を行い健康状態に変化があった場合にはその都度報告を行的確な支援をもらっている。今後は医療連携体制を提携する予定である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの情報提供を行い、入院先の訪問やナース、ソーシャルワーカーとの情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期については家族と事業所が意見交換を行い納得後方針を決定している。今後は医療連携体制を提携後は看護師からも指針の内容説明の予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についての研修を行い応急手当についての方法は救急救命講習を全ての職員が受講し実践力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を2回/年実施し避難経路方法等を全職員が把握している。又地域との協力体制をいただける事も了解を得ている。防火管理者による自主点検を毎月実施している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報規定を社内で制定している。プライバシーが損なわない様な声かけを行い、入浴の際にはカーテンでプライバシーの確保に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や訴えを考慮しまた何でも話せることができる様な雰囲気作りを行い自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を確実にを行いその方のペース体調に合わせ希望に沿ってサービス支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々により洋服髪型の好みがある為その人に沿った支援ができる様要望を考慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みをきき入れ献立に繁栄している。行事、外出時には普段と違うメニューの提供を行っている。お手伝いを一緒にできる利用者にはその都度声掛けし手伝っていただいている。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量については記録に残し摂取量を把握している。栄養士により年1回の栄養指導を受ける。水分摂取制限の方については決められた量の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声かけ誘導し清潔保持をしていただいている。清潔保持が保たれない方については一部介助の支援もする。入れ歯については定期的に消毒も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時は必ず記録し排泄パターンをつかみ、排泄がわからない方についてはトイレへの誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材や乳製品の提供を多くしたメニュー作りを行っている。また散歩や毎朝の体操を行い身体も適度に動かし便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望や体調により入浴を行っていただき入浴剤ゆず湯菖蒲湯等、入浴にて季節感を味わい楽しんでいただける様工夫している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な寝具で入眠して頂ける様洗濯を行っている。不眠の方については傾聴し安眠していただける様努め、入眠や休息時間はその方に沿った支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は違うスタッフによりチェックを行う。薬変更時には全ての職員に把握できるように説明し、副作用や目的用法等についても指示書を読み各自理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を考慮しながら個々に沿った役割や楽しみ好きなことを提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に考慮し散歩への外出支援や家族と一緒に外出が出来る様な場面作りを行いみかん狩りや梅見学等年間行事計画を立て外出の支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は自分でお金を所持している。外出の際や七夕等でお金を使用できる機会を支援している。		

ミモザ平塚南原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話をかけたい時は電話を取り次いだり手紙の投函や受け渡しは確実にしている。面会の機会が少ない方については希望により電話で声がきこえる様支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は不快にならない様な音光色温度を提供し季節感を感じ採れる様に季節毎の飾り付けを行い居心地が良く生活できる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同志で過ごすことができる様に席を近くにしたり一人で休息したい方についてはソファで寛いでいただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具や置き物、写真等自宅と近い環境を保つことが出来る様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じた安全で生活が出来る環境作りをする。バリアフリー、手すりスロープ等を設置して、杖シルバーカー、車イスでも生活が送れるように安全な環境作りをしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ平塚南原

作成日 平成22年4月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議がマンネリ化している。	新しい題材やテーマを話題に取り入れたりして会に創意工夫をもたらしていきたい。	今必要とされていることに気づくように努め、また協力ができることなど調査しそれを計画に活かしたい。	12ヶ月
2	33	重度化や終末期に向けたケア・取り組みが具体化できずに滞っている。	医療連携体制を築ける提携先を探し、現在以上に医療の安定、また必要時の対応が向上できるように支援を進めていきたい。	ご家族には同意を得るため説明を行い、御理解、御承諾を頂いたうえで動いている。現在、6月には医療連携をスタートできるように計画を練っている。	3ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。